

第3回 今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会

現行3要領・指針の成果と今後
ーカリキュラムや指導計画に着目してー

富山大学 若山育代

I. 成果

1. 幼保こ園においては、カリキュラムや指導計画の見直しを行う動きが活発化した
・乳幼児保育・教育の団体から依頼のあったカリキュラムや指導計画に関する研修

(実際の例)

- 園目標や園の環境等の実態に応じて、園のカリキュラムを5領域の総合性を保障するように見直すもの
- 資質・能力を基盤としたカリキュラムになるよう、様式を見直すもの
- カリキュラムと指導計画の関連性を見直すもの

⇒これらの見直しの過程で保育者はカリキュラムや指導計画の改善のために、様々な点に気付き創意工夫を行ってきた

2. 【保育者による気付き】自園のカリキュラムや指導計画の改善すべき箇所気付く

- ・資質・能力（5領域の「ねらい」）を一体的に育む視点をもつ
- ・3要領・指針改訂前の自園のカリキュラムの改善点に気付く
- ・「ねらい」と「内容」の区別

3. 【保育者による創意工夫①】10の姿の視点からの見直し

- ・年長児のカリキュラムや指導計画の「内容」を「10の姿」の視点から見直す
- ・保育者の援助や環境構成が、「10の姿」を考慮したものになるようにする

4. 【保育者による創意工夫②】3要領・指針に基づく教育活動を積み重ね、理論化

- ・園目標と3資質・能力を関連付けて、園目標を改めてとらえ直す
- ・3要領・指針を中心として、園目標、自園の子どもたちの遊びの特徴や育ちの方向性、園の環境（人的・物的）、地域との関わりの全てをより合わせることで、自園の特色や子ども育ちのありようが見えてくる⇒園による自園の保育の理論化

II. 今後の重点的に取り組むこと

- ・園カリキュラムを見直し・改善をした後、それと繋がるように長期/短期の指導計画をどう見直すか
- ・カリキュラムや指導計画の見直しを、園全体でどう取り組むことができるか
- ・これらが保育者にとって過度な負担にならないようにすることが重要